

中世の叙事詩と絵画への旅

石 塚 茂 清

「中世の叙事詩と絵画への旅 — 『ニーベルンゲンの歌』と平家物語—」と題して、人文社会学系棟 7 階 B721 会議室において講演を行った。

講演では、ドイツ語圏やハンガリー、北欧諸国で撮影した『ニーベルンゲンの歌』関係の壁画・絵画等の図像作品を OHP で投影しながら解説をした。まず、『ニーベルンゲンの歌』が、ゲルマン民族大移動時代に題材をとっていること、人々の愛憎の推移が民族の衰亡を招くという壮大なスケールをもつ中世の英雄叙事詩 (Heldenepos) であることから説き起し、叙事詩の梗概を述べた。忠誠、貞節という道徳力が、ハゲネとクリエムヒルトにおいて、魔的な根源力と結んでいる様は、世界文学の一大偉観と言われていることを紹介した。更に、中世騎士文化の特徴を示す文学である宮廷叙事詩との比較を通して、文学史上の位置づけについて言及した。

『ニーベルンゲンの歌』冒頭の有名な詩節 (Uns ist in alten maeren wunders vil geseit に始まる) の中高ドイツ語原文をスイスのザンクト・ガレンにある写本 (B 写本) で紹介し、朗読して日本語訳を添えた。また、カールスルーエ図書館所蔵の C 写本とミュンヘンのバイエルン州立図書館所蔵の A 写本については、カラーの写真版を OHP で提示し解説した。

『平家物語』冒頭の「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり (以下略)」を、林原美術館所蔵の絵巻で紹介し、内容や地誌的観点から『ニーベルンゲンの歌』との類似点について若干の比較を試みた。

次いで、『ニーベルンゲンの歌』の第 1 歌章に描かれている「クリエムヒルトの悪夢」、すなわち「ウオテの夢占い」について、武田猛による名訳 (大正 10 年 3 月、三星社) を用いて紹介した。なお、この夢占いの場面については、J. ヒュープナーによる木版画 (1840 年作成) を用いて解説したが、この木版画は英雄叙事詩の内容を見事に表しており、叙事詩原典を理解する上で有益である。

『ニーベルンゲンの歌』の舞台は、西はイーゼンステインから東はエッツェルンブルクに至る広大な地域に跨っているが、この説明のために、日本語で書

かれた地図、及びドイツ語の注記のある詳細な地図を用いた。後者の地図には、叙事詩の主要舞台と関係深い画像を転写し、ゲルマン民族固有の神話・伝説に焦点を当て、ライン川からドナウ川沿いの諸都市の場面ごとに説明した。とりわけ、「石投げの女王ブリュンヒルト」、「ニーベルンゲンの宝」、「水の妖精」、「フン族の王エッツェル」については、主として 19 世紀の絵画作品を用いて解説した。

短時間のセミナーでもあり、「参考となる文献」のリストをプリントで用意して配布した。ワグナーの舞台祝祭劇と関係深い作品ということから、ドイツ中世の叙事詩原典に関心を抱き、関連知識を得たいという意欲が参加者から伝わってくるセミナーであった。

なお、司会は現代語・現代文化学系の伊藤眞助教授に担当して頂いた。